

R18  
Adult only



此世の  
随に  
須臾の  
流





ご足労頂き感謝致します。  
旅人。



影から用事なんて珍しいよね……。  
稲妻で何かあったのかとも思ったけど  
平和だし。

急用という程でも  
なかったのですけどね。  
……ただ、此度の用事には  
協力者が必要でして。  
旅人以外に適役が  
浮かばなかったのです。

——と言うと？



夜伽の相手をお願いしたいのです。



何か軽蔑だかとは思ってたり...

これが摩耗か。

失礼な。今からでも貴方を神像に嵌め込む用意が私にはあります。

買い言葉強すぎん？

これでも私も民に寄り添おうと色々考えてですね.....!

思考の飛び方雷霊かよ.....

どうしてそうなった...

というか、別に俺以外にも適任はいると思うけど.....

ふむ.....  
例えば？

トーマとか。  
イケメン、高身長、世話焼きで家事全般OK!  
完璧と称して差し支えない。

婚姻を求めているわけではないのですが。



万葉は？  
どんな事情でも受け止めてくれそうな柔軟さと優しさがあつる。  
あと言っちゃ悪いけど暇そう。

ごさ？

正気ですか？友人を殺された挙句、指名手配にされて一時的に国を追われ、一太刀とは言え刀身を交えたのですよ？その上、目上の逆らえない命令で情事に至るなんて生き地獄では？前世に業があつてもここまで求めませんか？人の心とかないんですか？

早口だね。

スリーアクトか...





一斗は？  
テストステロンに溢れてそうな  
オラオラ系野生児！  
情熱的な夜を送れること間違い  
なし！  
あと暇そうだし。

誰でしょうか？

顔が広いようで……

鬼も泣くんぞ。

民と向き合えん。



ふむ……。  
一体何が不満なのでしょう？

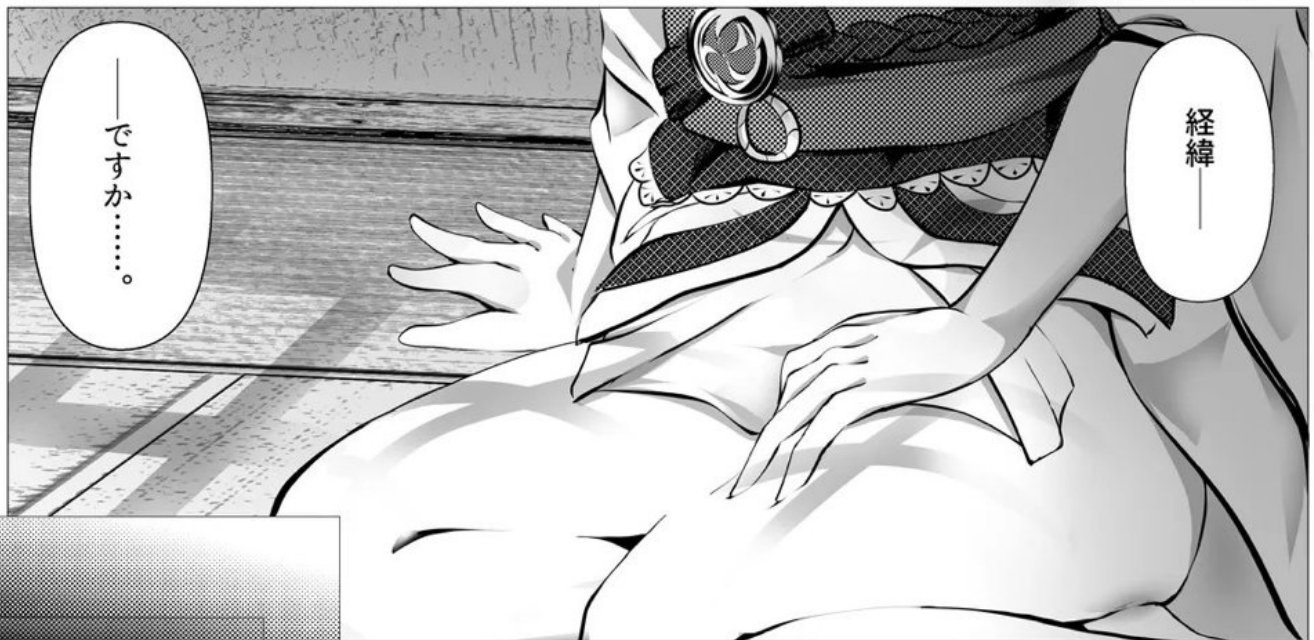
いや……。  
不満というか。

魔神との夜伽など、  
得難い機の様子に  
思いますが……。

レア度で  
セックスするわけじゃ  
ないんだよ？

はあ……。  
流石に——

経緯も分からずに、  
突然引き受けられる  
わけじゃないよ。



経緯——

——ですか……。





精が出るのう。

影。



神子。

.....

何か急用でも？

用事がなくとも、旧友の元を訪れることくらいあってもよからう？

童に連れ出されるか、妾が呼び出さぬ限り、汝は外に出て来んじやろう？

いや今は流石にもう少し出ますが。

汝は真面目過ぎるんじや。偶には民の娯楽に触れるのも良いじやる

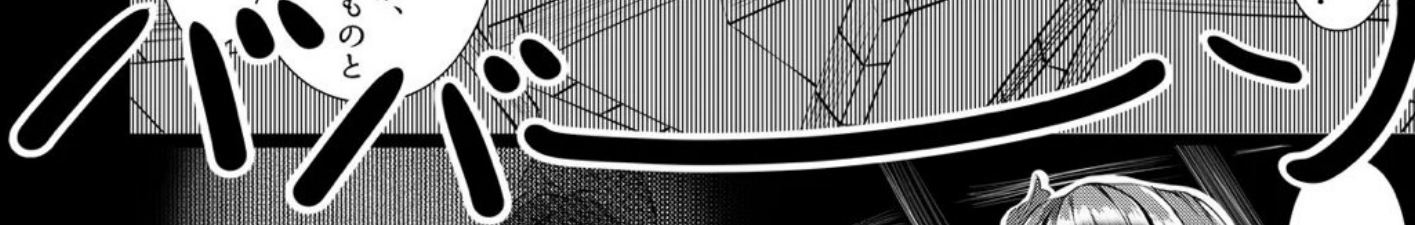
流すじやないですか。

ほれ！  
八重堂が最近発刊した娯楽小説じや！

中身は、まあ……玉石入り混じるところじやが、形はどうあれ、人の望みが形になったものと思えば、これが実に面白い。

もう少し純粋に楽しんでみては？

……。





これも遺った縁、  
ですか。

では一冊拝読致しましょう。

もう少し  
吟味せんのか？

何れに触れようと  
私には新鮮な刺激に  
なるでしょう？

例えば  
この一冊。

高圧的だけど美人で爆乳な  
女將軍が俺の一太刀にどハマリ  
して大変な件。  
〜ベッド上の御前試合で汁だく♡  
いちやらぶ♡中出しH♡

※本作品はフィクションであり、実在の人物・団体とは  
一切関係ありません。

相手が私なのに  
御前試合とん？

そふか？

どんな情緒で  
読み上げておるんじや？

そごいの混じってあった……

あー……影。  
その本はじやな……。

——っ！  
これは……！



「つまり、民が求める私の空想上の姿である……と。」

名推理!

うーむ……  
間違っではおらんな。

変なところで真面目スイッチ入った。



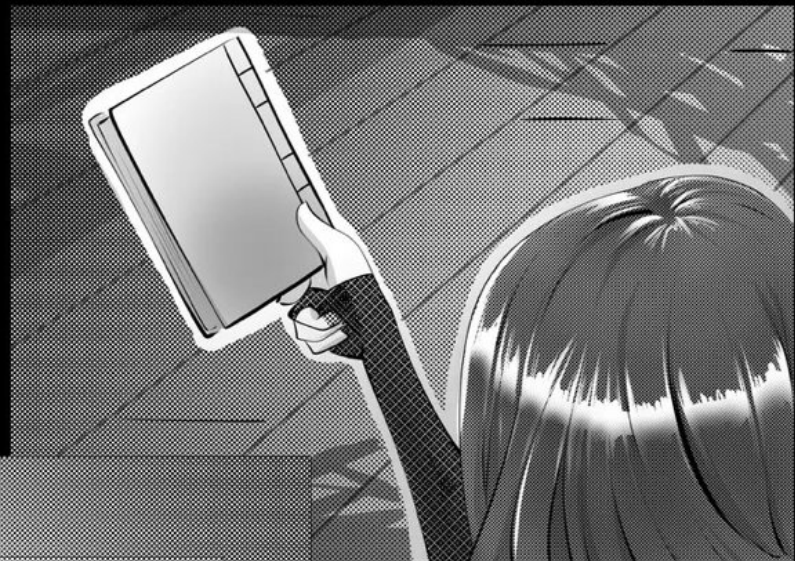
私は長い間、民の声と向き合わずにいました……。

民意を知る貴重な機会……感謝致します。

クーリングオフしたい感謝じゃな。

いやしかし……民意と言っても……

そんなもの、どんな風に参考にするんじゃ?



……。

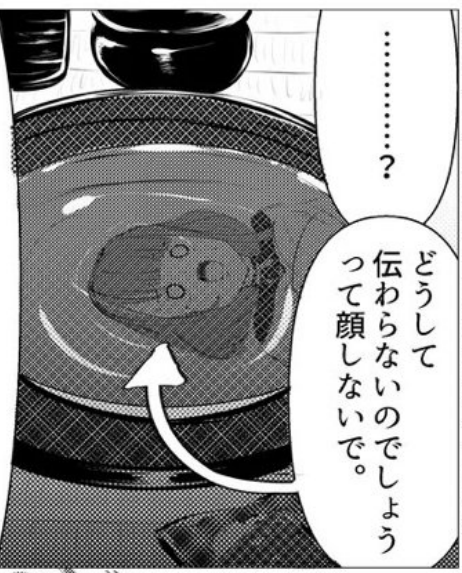


おわがしいなだいた



お分かり  
頂けましたか？

うーん……。  
神の考えは流石に  
高度だなんて。



……？  
どうして  
伝わらないのでしょ  
うって顔しないで。

うですわね……まず私なりに娯楽小説というものの在り方について考えてみました  
実とは異なる——果ては存在しない架空の物語——を、それを観  
るに、これは人の生の短さによるもので、  
から彼女の一生は短く、儚いもので、  
かし人々は、大志を抱き、手を取り、  
心浄土を出て以来、人々の知恵や発  
よつと喉が渇いてきたので、回子牛乳  
あそれは後の楽しみにしておいてです  
は、この娯楽小説の中に真の語る夢想の姿を垣間見

あ、詳細はいいから。

そうですか。



まあ……  
伝わらずとも  
構いません。

私に任せて下さる♡

もみゅる



どうですか？  
私のおっぱいは……♡

いや……どうですか  
じゃなくて……。  
落ち着いて！  
影……っ。

普通に考えて、  
一国の長が簡単に身体を開くのは  
問題あるって……！



……言いたいことは  
わかりますよ。

ですが……♡

(はま♡)

(はま)



旅人さんのここは  
随分と素直な様ですが……♡

ワアーツ！  
きつとエロ漫画で学んだ  
台詞ダアーツ！

ホントにやうう人いるんだ！





今はそれを小さくない  
過ちと感じていることも  
事実ですが……。

急に何を……!?

ふふ……。

いや……これ、そうか……!

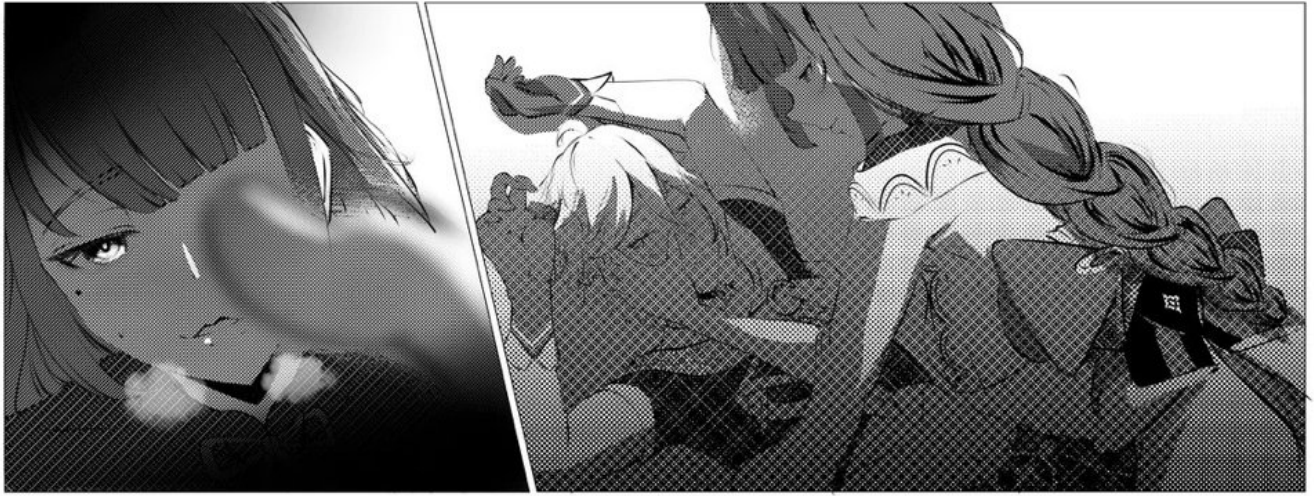
何の為に己を摩耗から遠ざけていたのか……、  
お分かり頂けましたか？

この為じゃないことはわかる！

これが摩耗に500年対抗し続けた、  
魔神バアル・ゼブルの力……!!

ギョウウ……







彼女は神である以前に、  
一国の長だ。

こんなことが  
あつてはならないと  
分かっている。

こうして手を離されても  
本気で逃げ出そうと思えない。  
どこか期待さえ覚えている自分を意識して  
胸が悪くなった。

……対して  
そんな嫌悪もうやむやに許容される空気に寄りかかって  
より一層の期待と興奮を自覚すると――



—また一層  
自己嫌悪が深まる。

—乱れた心に、背徳感は意外なほど  
優しく染み渡ることになった。

いっ

ツンツンが、  
胸も頭も乱暴に揺り回して—

ハ  
サ  
...

は

は

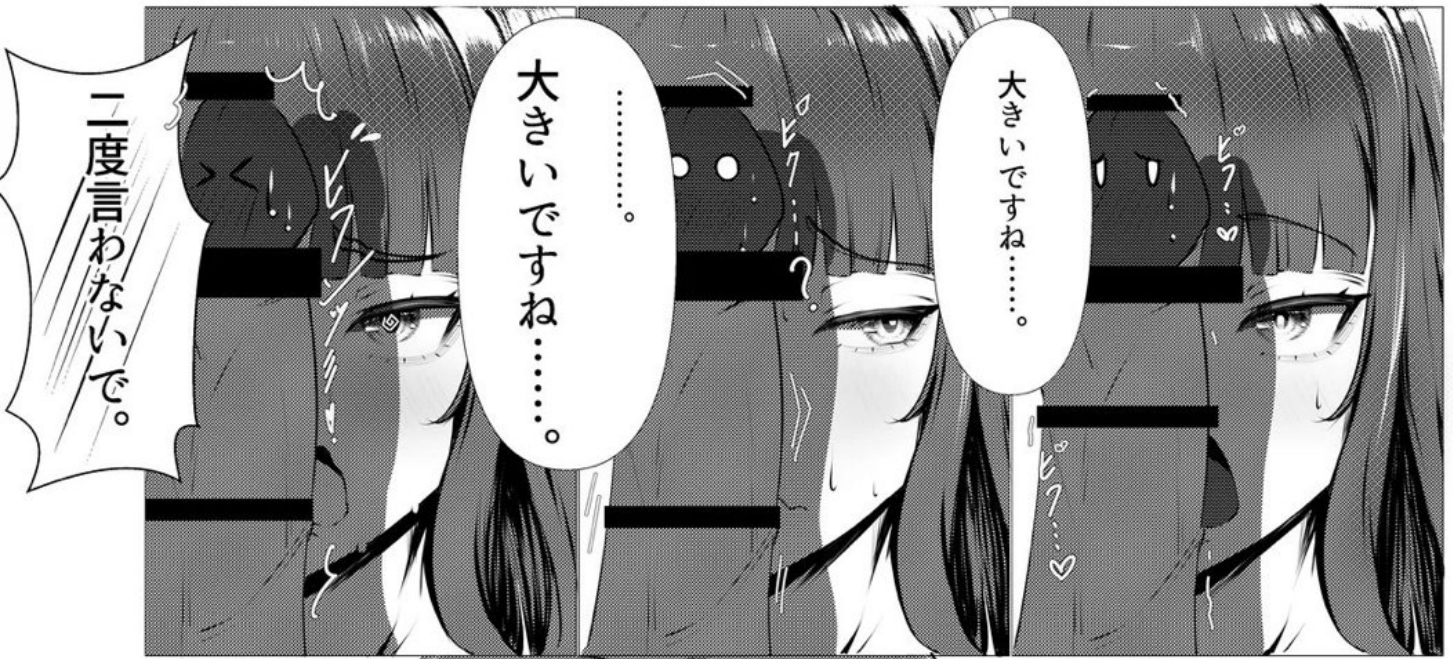
...

...

...















くっ……!!

大体、影って武神の筈だろ!!

何でこんなデカイ胸して……!!

♡

むい……♡



………。

何でだ？

何で魔神バアル・セブルは女神の姿を採用した？



影は武の道に惚れ込んだと語っていた。  
丸みを帯びた肩。  
豊満な胸。  
地に触れそうな長過ぎる髪。

筋質を感じない繊細なシルエツトは、『武人』のイメージから余りにかけ離れて『女性的過ぎる』



私は影

影……。

どうい理由であれ、

「無相」をもって——  
稲妻の前に立ち塞がる  
全ての障害を取り除き  
ましよう。

真はこういうことを喜ばないんじゃないかな……？







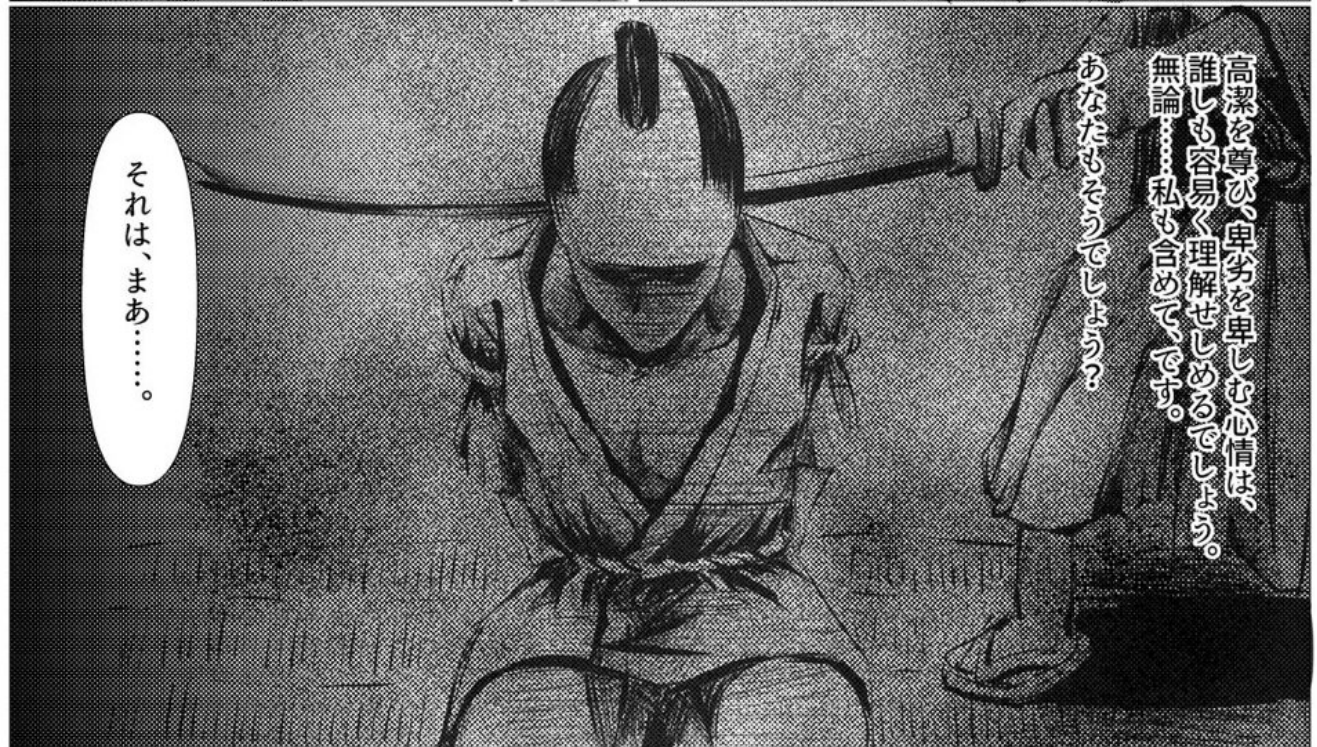




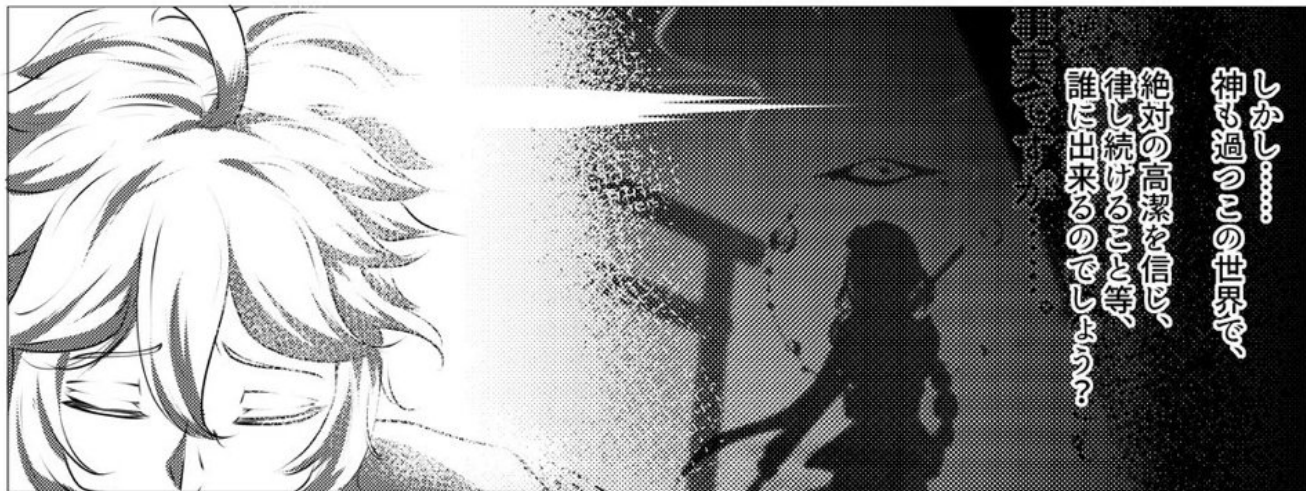
凄におい……♡

はあ……♡









しかし……  
 神も過つこの世界で、  
 絶対の高潔を信じ、  
 律し続けること等、  
 誰に出来るのでしょうか？



……。

——その通りだ。



旅人さんもそうでしょうか？

手を掴んでいる時ならいざ知らず、  
 あなた程の傑物なら、逃げ出すことに注力すれば  
 やってやれないことはなかった筈です。

この為じゃないことはわかる

きゃわう...



私もです。  
 不徳をひしひしと感じながら、旅人さんの、  
 その……辱められた姿が私の手で生じている  
 と思うと、胸が高鳴るのを感じました。


想像だにしなかった、不可抗とすら感じる  
 情動です。

大体、影って武神の善たる!?

何でこんなデカい胸して……

急…はげし…

げ  
 ぎゅっ♡




このような衝動は情事に限った  
ものではないでしょう……。

無論、一国の統治者として、  
民が過れば咎めねばなりません。

……不徳に堕ちる人間の心理を  
体感してみたかったってこと？

犯罪心理みたいなの……教令院なら  
因論派辺りの分野になるのかな。




——そういうことです。

先程も申し上げましたが、  
余りに強引だった自覚はあります。  
遠からず、何か埋め合わせはさせて  
頂きますので——



ひが!?

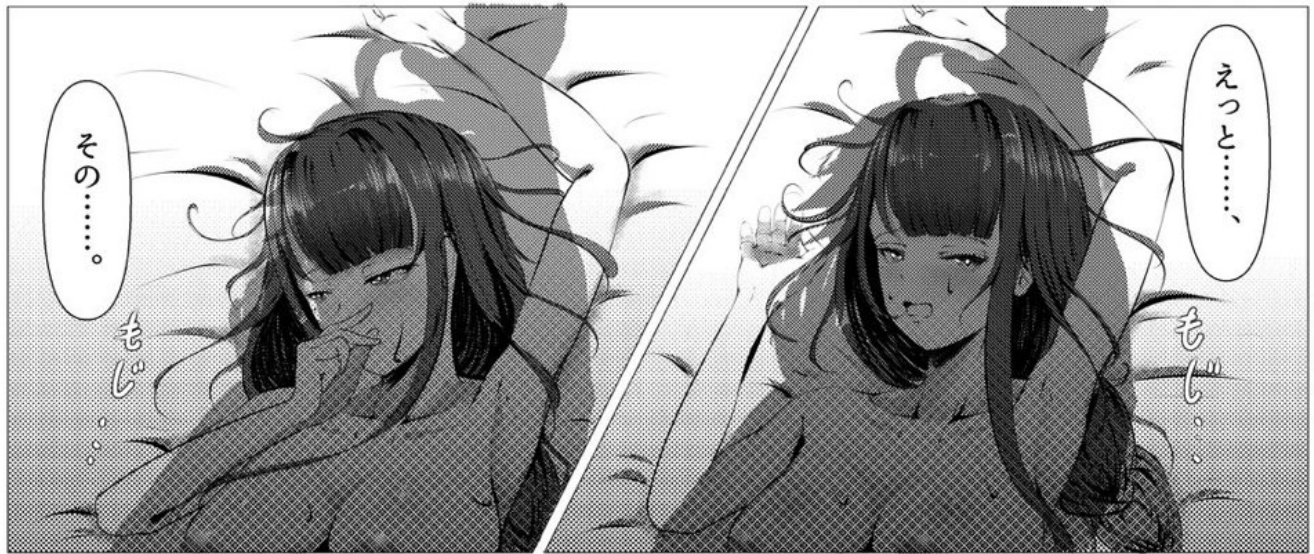




ここまでして  
「用が済んだから終わり」  
ってというのは――

虫が良すぎるんじゃないか？



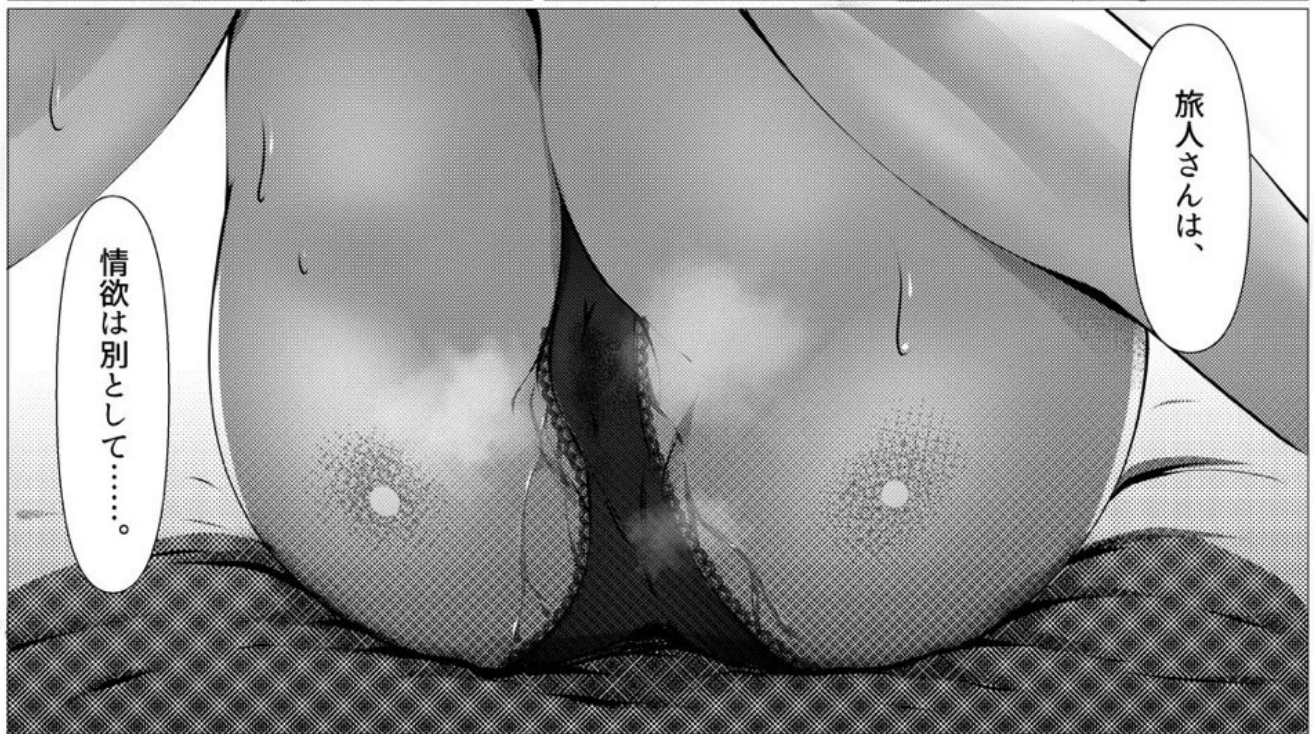


その……。

まじ……

えっと……

もし……



旅人さんは、

情欲は別として……。



本心では、

嫌がっているのでは、と……。





それを影の都合で無理やり押し進めるんだから酷い話だ。



……そうかもね。



謝ってほしいわけじゃないんだ。

でも、まあ……影が知りたかったことはわかるかも知れない。



悪かったとは……

思っています。





人は――

こうやって間違えるんだ。

……遠まわしですね。

アス







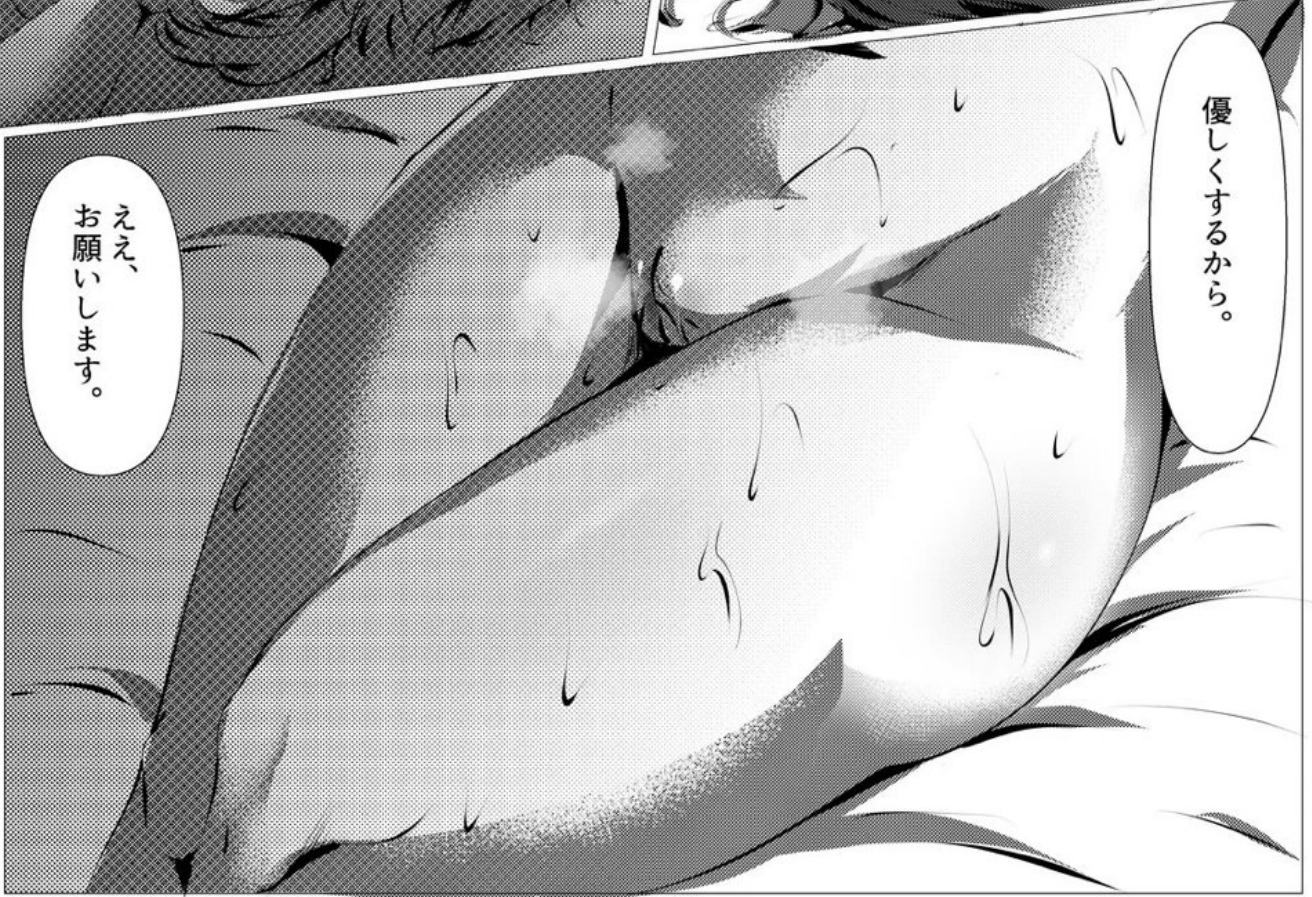
人は非合理だから。

その様ですね。



私が考えるよりも——

——ずっと。



優しくするから。

ええ、  
お願いします。



キキ

あ:♡

キキ

は

は

は

は

キキ

キキ

キキ

キキ









……大丈夫？

……見くびらないでください。  
私は一介の武人であり、武神です。



痛みには強いんです。

——うん。  
頼もしいや。

ズッ





しゅわん

.....おしこ.....

.....



.....影つてもしかして.....

——いや、そりやそうか。

んっ

(はあ)

(は)

神様だもんな.....



あ

あ

あ

(はあ)

びん

あ





「無相」に『永遠』の似姿を描く私に、  
「夢想」こそ浮世の追い求める姿であると  
気づかせたのですから……。

しかし、願いはその全てが尊重出来る形で  
現れるとは限りません。  
以前にご同行頂いた鷹司の一見然り……  
今宵の逢瀬の発端となった書籍もそうでしょう。

俗世を眺める最中、ふと考えるのです。  
夢想と現世、その狭間に生じる矛盾を、  
眞は如何様にして解消していたのでしょうか？  
……あるいは、その道理すらも示してくれようと  
していたのでしょうか？







「私は影が足りえている」だろうか？







私は眞の様に民と向き合っているだろうか？



もう少し——

——罪の意識に苛まれるものだと  
思っていました。

しかし、今のこの感覚を、

幸福だと信じたい自分がいて……  
少し驚いています。

——人は非合理だからね。

私は神ですよ？

それでも、許されるのなら、

ギュー……

……うん。  
神様って大変だ。

——そんなことを、  
思ってしまうのです。

「この須臾が、永遠に埋もれぬ輝きで  
あってほしい」





「どうしました？  
「とんでもないことをしてしまっただ」  
という顔をしています……。」

うん。  
とんでもないことをしてしまっただ  
からね。

……まあでも、少し気負い過ぎている  
気はするな。  
影が思うよりも、稲妻の人々は強いよ。



信念の為に命を賭して――

最強と信じる武神に立ち向かえる。



神が過つても律せるほど強い。

……そう、

――ですね。



雷電真だけの国じゃないでしょ？

雷電影の背中を追う様になって、久しい。



稲妻は今——どんな国？

